

News Release

地域とともに 和歌山県那智勝浦町で生物多様性保全活動を開催

JESCO ホールディングス株式会社（以下、当社）、熊野自然保護連絡協議会（以下、熊自連）、公益財団法人日本自然保護協会（以下、NACS-J）は、2026年5月22日、那智勝浦町下里地区の湿地において、保全イベント「みんなで守ろう！下里の湿地といきものたち」を開催しました。那智勝浦町の後援のもと、那智勝浦町の堀町長をはじめ、町や地域の皆様、関係者など総勢23名が参加し、保全活動と生き物観察を行いました。

当社は那智勝浦町に16.7haの山林を保有しております。2026年1月には、町全域でのネイチャーポジティブ実現を目指し、当社・那智勝浦町・NACS-Jでの三者連携協定を締結しました。この協定に基づき、町内の生物多様性保全上重要な地域の保全・再生活動を進めています。

今回活動の場となった下里の湿地は、当社が2025年に実施した那智勝浦町における生物多様性保全重要地域調査において、重要地域の一つとして位置づけられた場所です。近年、管理不足による植生の変化が懸念されており、継続的な保全活動が求められていました。

当日は天候にも恵まれ、参加者は初夏の日差しの下、草刈り作業やゴミ拾いを実施し、湿地エリアを整備しました。作業の合間には、熊自連の瀧野会長によりこの場所の重要性について解説をいただきとともに、複数の絶滅危惧植物や多数のトンボなどを観察することができました。参加者からは『普段気づかなかった身近な自然の豊かさを実感できた』といった声が聞かれました。

地域住民と企業、専門家が一体となって活動することで、地域の自然環境への理解が深まるとともに、保全活動を継続していくための地域ネットワークの構築にもつながる機会となりました。



下里の湿地で実施した保全活動の様子

三者協定に基づく取り組みは始動したばかりですが、地域の自然と人々の暮らしが調和し、次世代に豊かな自然環境を引き継いでいけるよう、今後も継続的な活動を展開してまいります。

以上